

元治元年十二月二十九日より元治二年一月三日まで

P8311212 right

廿九日申 晴

痴雲老より昨の返書さし越、急具須箱入を贈り来る、安部より羊糕一折贈り来る借地の謝意なり、小品を酬ふ、出 殿、弥一を以、太一より欧州土産として唐墨九枚入ぬり箱二箱並隨園

真蹟、一帖を贈らる、詰番加出惣代として歳暮賀を例の通り申上る、長藏歳暮として来りし旨、せき来り、山本(長)今朝出立相済旨伝言有し□込二の内一を返し菓子一折を贈られし旨、笠原へ過日尋問し挨拶として、今朝到来り羊糕管を遣す、金之助引移□蓄麩を設け、福茶を煎

P8311212 left

元治二丑

正月

朔日酉 晴

年始御禮罷出太刀目録献上御流頂戴退出懸け、老若廻勤、五郎生年賀として来る一杯を勧む年玉品を贈らる

二日戌 晴

暁八時頃、日比谷御門内出火に付登城、程なく退出事未明、宅調、藤山(馬)長藏年賀に来る、永持へ

年賀に行き鶏卵一箇、落雁一折外品添持参、枅酒を勧らる、宿岡(彦)年賀に来り、

小鴨海苔を贈らる□□を勧む

三日亥 陰

宅調、太郎へ名代の意を申含め牛込へ年賀に行しむ、昨来の鴨海苔を携えしむ、広沢並

(○内は細字双行(二行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。

【文字判読不可】、■は、文章の一部に汚れ、虫食いにより文字が無い等です。